

教師用解説書

ちがうことは 自然なこと

ここがわかる!

- ✓ ねらい
- ✓ 使い方
- ✓ 留意点



横浜市

はじめに

「ちがうことは自然なこと」こどもリーフレットは、児童の皆さんに、障害がモノや物理的な環境だけではなく、人の意識や習慣、制度などによっても生み出されるものであるという考え方を学び、全ての人の人権と尊厳が尊重される共生社会を実現するため、「社会モデル」の考え方に基づいた行動ができるようになることを目的に作成しました。

障害の「社会モデル」とは、

障害は、心身の機能障害と社会にあるモノや物理的な環境、人の意識や習慣、制度など様々な障壁＝社会的障壁(バリア)との相互作用によって生じるものであり、この**社会的障壁(バリア)を取り除くことは、社会の責務である**とする考え方をします。※

※出典:こころと社会のバリアフリーハンドブック(国土交通省)

共生社会とは、すべての人が互いの人権や尊厳を大切にし、様々な状況や状態の人々が分け隔てなく包摂され、支え手側と受け手側に分かれることなく共に支え合い、多様な個人の能力が発揮されている活力ある社会です。※

※出典:ユニバーサルデザイン2020 行動計画

共生社会を作るためには、

- 社会モデルの考え方を理解し、日ごろから意識することが重要です。
- 社会的障壁(バリア)に気づいたときには、それを取り除くため具体的な行動を起こすことが重要です。
- 人によって社会的障壁(バリア)はそれぞれであり、また除去の方法も様々であることから、コミュニケーションを積極的に行い、どのような行動が必要なのかを理解することが重要です。

これらの考え方などを具体的に学ぶため、このリーフレットは以下のような構成となっています。

① 学校の中を見てみよう (P.1)

まず自分には「誰とも同じではない差異があること」を意識することから始まります。

🔍 さがしてみよう! 学校たんけん (P.2)

学校でも、社会にある障壁(バリア)を無くし、自分たちに合った環境が整えられていることで、誰にとっても生活がしやすくなっていることを知ります。

② まちの中を見てみよう (P.3-5)

ここまでの学習を踏まえて「まち」にいる人の多様性や「まち」にいる人の意識や「まち」の環境が、どのようなときに障壁(バリア)があり、どのようなときに障壁(バリア)がないのかに気づいていきます。

③ ちがうことは自然なこと (P.6)

教室の中にも多様な自分たちに合った環境があって、どの子も同じスタートラインに立って授業を受けられることが「自然なこと」であることを理解していきます。



タイトルに込めた思い

今の社会では多様性の尊重と言われている一方で、社会的障壁によって、様々な場面で、困難に直面する人がいます。こうした状況を解消していくためには、人と人との違いを認め合える共生社会を実現していくことが求められています。そこで共生社会構築の原点として、「ちがうことは自然なこと」としました。

後ろ向きなのはなぜ?

表情を想像してもらうことで、私たちがこれまで抱いてきた「障害」の概念を見直し、新しい視点で考えるきっかけとしてもらいたいからです。

1 学校の中を見てみよう

(P1~2) ねらい 障壁(バリア)は、自分たちの生活の中にもあることを意識すること。
使い方 P2最後にあるセリフの内容に気づけるように、クラス討議や児童の考え方を整理し、導いてください。

(P1) ねらい
 同じクラスの中でも自分と全く同じ人はいないことに気づく

使い方
 ▶①の書き込み欄に、自分にどんな特性があるのか、自己分析をしてみます。
 ▶次に、②の書き込み欄を使いながら自分の特性が、お友達の特性と全く同じかどうかを考えていきます。

1 学校の中を見てみよう

最初は、身近な友達から…

自分の得意なことや苦手なことを書き出してみよう

1

ロールプレイングゲームは苦手だけど、パズルゲームは得意!

字を読むのは苦手だけど、まんが漫画は好き!

てっぼう鉄棒は苦手だけど、水泳は得意!

話すのは苦手だけど、作文は得意!

まわりの友達はどうかな? 自分と同じかな?

2

さがしてみよう! 学校たんけん

学校の中には、小学生の自分たちが使いやすいように工夫されているものがたくさんあるよ。

例



つくえ
机・いす



かいたん
階段の手すり

学校はみんながすごしやすいように工夫されているんだね。ほかにどんなものがあるか話し合ってみよう。

3

みんなの学校生活で

- 友達同士おたがいに理解し助け合う心
- 自分にとって使いやすく工夫されたものがあつたら、すごしやすいよね。

(P2) ねらい
 自分に合った環境があることで、困らなくなっていることに気づく。

使い方
 ▶③の書き込み欄を使いながら、学校の設備が、自分たち(子どもの体格・理解力)に合わせた環境となっていることに気づくように導いてください。例えば次の点を意識しながら導くと容易になると考えられます。

- 机
大人の(先生の)机しかなかったら、勉強しやすいのか
- 図書室
低学年の人が読む本が棚の上の方にあつたり、本が分類ごとに収納されていなかったら、読みたい本が困らず手に取れるのか
- 水道の蛇口
もし大人が使うくらいの高さにあつたら、手洗い場には踏み台もなく、困らず手を洗えるのか

▶事例以外にも、児童の体格・理解力に合わせて作られている学校の設備について、自由に児童に考えてもらい、共有しあってください。

(P1) 留意点

①・②の目的は、自分の差異を確認することです。「他者の違い探し」にならないようにします。発表する場合も、他者の違いではなく、自分の違いを発表していくようにします。そして互いに理解し合うことから、さらに互いの違いに配慮した行動とは何かを具体的に考えてみることで進めたら、望ましいです。

(P2) 留意点

バリアフリーの設備(使いやすい道具)や配慮は、心身機能に障害がある人だけに必要なものと思われています。ところが心身機能に障害がなくても、その人の実情に合わせた環境(使いやすい道具など)や周囲の配慮がないときには、障壁(バリア)が生じてしまいます。学校内の環境を通じて、児童一人ひとりが自分事として考えられるようにすることが重要です。

社会の人の意識や環境に目を向け、「障壁(バリア)」がどこにあるのかを発見し、「障壁(バリア)」はなぜできてしまうのかを考え、その解決方法にも意識がいくようになること。

2 まちの中を見てみよう



とあるまちで
2 まちの中を見てみよう
さがしてみよう! まちたんけん

みんなにとって使いやすく工夫されたものがふえているよ。

まちの絵を見ながら、友達やおうちの人といっしょに見つけてみよう。

- 1 どんな人がくらしているかな?
- 2 バリアはどこにあるかな?
- 3 バリアを無くしている工夫はどこにあるかな?
- 4 工夫があるところでもバリアができてしまうのはなんでかな?
- 5 みんなのバリアを無くすにはどうしたらいいかな?

いろいろな人がくらすまちの中で
●おたがいに理解し、みとめ合う気持ち
●自分にとって使いやすく工夫されたものがあつたら、だれもがこまらないですごしやすいね。

あれ? わたしたちの学校生活と同じ!!!

解説

1 どんな人がくらしているかな?

まちには、さまざまな国籍や年代の人が描かれています。

- <からだの状況>
子ども、大人、妊婦、耳が不自由、手足が不自由、目が不自由、外見ではわからない疾患がある人
- <移動の仕方>
徒歩、ベビーカー、盲導犬、手動車いす、電動車いす、シニアカー、杖、白杖

2 バリアはどこにあるかな?

どこに障壁(バリア)があって困りごとができていのかを考えてください。 **左ページの留意点参照**

階段、網目の広い格子状の蓋、路地の見通しをふさいでいる木の枝、音響設備のない信号など

3 バリアを無くしている工夫はどこにあるかな?

環境整備だけでなく、人の意識も含めて両面で探してみてください。

環境整備	スロープ、エレベーター・エスカレーターなど
環境整備+人の意識	タブレットの翻訳機能を使った会話、文字による会話など
人の意識	横断歩道での誘導、カウンターから外に出での接客など

4 工夫があるところでもバリアができてしまうのはなんでかな?

環境整備(バリアフリー)があっても、そこに人が障壁(バリア)を作ってしまった個所を探してみてください。

スロープ上での二輪車の放置、エスカレーターを歩く人など

5 みんなのバリアを無くすにはどうしたらいいかな?

この「まち」から障害をなくすには、どうしたらいいのかを考えてみてください。

例えば、階段しかないことが障壁(バリア)となっている場面は、スロープやエレベーターの設置といったハード整備が考えられますが、今すぐにできることではありません。将来的に整備することも必要ですが、周囲の人たちの協力で障壁(バリア)をなくすこともできます。今できる解決策を考えることも障壁(バリア)をなくす大きなポイントです。

使い方

▶「まち」の風景から障壁(バリア)があるところを探してみます。まちの中には、心身機能に障害がない人が困りごとに直面している場面も記載しています。これらを見つけられることを目指します。

児童への声かけの例

「バスに乗ろうとしている車いすの人は困っているのかな?」「その人は何で困っていないのかな?」
「歩ける人で困っている人はいないかな?」「〇〇が障壁(バリア)になって困ってしまうんだね」

留意点 (P5の2)

ポイントは「心身機能の障害の有無に関係なく、障壁(バリア)によって困ることがある」ということです。困りごとの原因となる障壁(バリア)は、人の意識や環境にあるということを意識づけできるように導いてください。さらに地域やクラス、家庭にある障壁(バリア)はどこにあり、なぜできてしまうのか、解決方法などまで考えられると良いです。

3 ちがうことは自然なこと

ねらい

様々な人が同じスタートラインに立ち学んでいくために、それぞれ自分に合った学び方を選ぶことの重要性を理解し、それを互いに認め合えるようになること。

使い方

▶一人ひとりが「どんな環境があることで障壁(バリア)なく読書ができているのか」「障壁(バリア)なくグループ討議ができているのか」について、児童に発言してもらってください。

児童への声かけの例

「なんだかみんな違った方法で勉強しているみたいだね。どんな勉強の方法があるのかな。」

心身機能に障害のある児童の学習方法に着目しがちですが、全ての児童(自分たち)に目を向けることができるように促してください。

P2で学習した「児童の体格に合わせた机」が、なぜ学校では用意されているのかを思い出してみてください。

▶それぞれの違いに気づいたら、「なぜ一人ひとりの違いに合わせた環境があるのか」について考えてみます。

学校の中で共に成長していくには、スタート地点をそろえるための環境整備が必要であり、それを互いに認め合うことで誰にとっても障壁(バリア)のないクラスになっていくことを児童が実感できるように導いてください。

児童への声かけの例

「それぞれ違う方法で学習しているみたいだね。何で、同じ方法じゃないんだろう。」

「一人ひとりに合わせた方法があると、誰もが困らないで学習できるんだね。」

あえて自分と違う方法は「ずるいこと」なのかなと、問いかけてみてもいいです。

※事前に次ページの個々のキャラクターについての解説を参照いただき、その子が同じスタート地点に立つためには、なぜその環境が必要なのかについて理解したうえで導いてください。

3 とある教室でちがうことは自然なこと

それぞれ自分にあつた方法で勉強しているね



◀ 最後に見てね

グループワークでは



留意点

●児童の心身機能のみに焦点を当てないように気を付けてください。

●周囲が、心身機能の障害がある児童の「できないこと」を知って、短絡的に「できないから助けてあげよう」や「受け入れてあげましょう」ということではなく、「どのような工夫があれば一緒に学べるのか」を本人とともに考える姿勢を持つことが大切です。

●一人ひとりに合った工夫は、特別なことではなく、「全ての児童(自分たち)にも必要なこと」であると気づくことが大切です。

このことにより心身機能に障害があってもなくても同じスタートラインに立つことができ、そこから能力を伸ばしたり、もっとできることを増やしたりしていきます。周囲の児童が「特別扱いをされているずるいやつ」という目で見ることがないように、「同じスタート地点に立つための環境整備」であることを、意識して導いてください。

それぞれの児童に合った環境

- 1 イヤーマフを使用することで、自分に必要な音を聞きやすくしている。
- 2 タブレットの読み上げ機能を視覚情報と併用することで、内容を理解している。
- 3 からだに合わせた車いす利用のままで、使いやすい机が用意されている。
- 4 ギブス使用の状況に合わせた足置きが用意されている。
- 5 見え方に合わせて点字の本が用意されている。
- 6 遮へい板を使用することで、周囲からの刺激を遮ることができる。
- 7 キーボード入力を使うことで、筆記の苦手をカバーできる。



全員が配慮を受けている教室内の環境設定にも焦点をあてる

8 先の見通しがつきやすくなる

- 掃除当番の順番を視覚化し提示している
- 時間割を提示している
- 声の大きさを棒グラフで視覚化している

※情報量が多いと、必要な情報が分からなくなる児童もいることを考慮する必要があります。

机と椅子に切れ目を入れたテニスボールや防音キャップなどを装着することで、移動時に音を鳴らさず、床を傷つけません。

※テニスボールに対して、アレルギー体質の児童がいることも考慮する必要があります。

それぞれの児童に合った環境(グループワーク)

- 1 リモート受講の環境整備で、病院や自宅等どこからでも授業に参加できる。
- 2 同時翻訳アプリを使うことで、討議に参加できる。
- 3 タブレットの写真機能で、板書の筆記が難しいことをカバーできる。
- 4 机の角度を変えることで、読み書きしやすくなる。

お子さんと話してみよう

横浜市では、エレベーターを設け、段差をなくすなどといったハードのバリアフリーと、人の多様性を尊重し、偏見をなくすソフトのバリアフリーとが一体となった「福祉のまちづくり」を推進しています。

このパンフレットは、誰もが安心して暮らせる「まち」を目指すために、身近な学校と「まち」のなかに存在する障壁(バリア)について理解を深め、それは他人事ではなく、自分たちの生活の中にもあることに気づいていただけるよう、作成いたしました。

まちのなかでは、ハードのバリアフリーは進められてきましたが、様々な人たちが、お互いを認め合う(大切に)気持ちがないことで、思い込みや偏見による差別という大きなバリアを無意識に作り出してしまっていることもあります。

身近な家庭や学校生活、まちなかで、自分たちが直面している困りごとに対して、どんなバリアがあるのか、みんなで気づき、バリアをなくすために、皆さんそれぞれの立場で行動できることについて、お互いに話し合い、考えて頂ければ幸いです。

こまっている人がいたら、自分ができたいな。

でもどうやって手伝ったらいいのか、わかんないときあるよね。

知らなくても「どうしたらいいですか」と聞いてみるといいんじゃない？



参考(内閣官房HP)
心のバリアフリー
について



参考(国土交通省HP)
こころと社会のバリアフリー
ハンドブック/教師用解説書

福祉のまちづくり啓発リーフレット(小学生向け)

ちがうことは自然なこと

横浜市 健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課
〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10
TEL 045-671-2387 FAX 045-664-3622